

報告書

資料 2

佐久市子育て支援課 御中

佐久市健康づくり推進課 御中

作成日 令和6年3月6日

作成者 島崎直也、島崎アイコ

佐久市子ども・子育て支援拠点施設開館前ワークショップ第1回 実施報告書

実施内容

【実施ワークショップ名】

幼児の目で世界を見てみると？～もしも幼児だったら、新しい施設でどんなコトしてみたい？みんなで楽しく考えてみましょう～

【ワークショップ実施目的】

「こどもについて」「子育てについて」「地域について」、施設開館前に多様な地域の人達がつながり合い、学び合う場。

第一回目として、こども達の視座から世界を見ることで、こども達の成長に大切なことを、参加者の多様な経験を持ち寄り共に探る。

【実施日時】 令和5年12月9日（土）14時～16時

【実施場所】 野沢会館 大会議室 （佐久市取出町183番地）

【主催者】 佐久市福祉部子育て支援課・健康づくり推進課

【ワークショップ企画実施者】 なおやマン（島崎直也。前佐久市こども未来館館長、佐久市子ども・子育て支援拠点施設運営検討有識者会議会長。）、しま：アイ（島崎アイコ）

【参加者】 対象：学生・大人、どなたでも（主に、子育て支援団体、こどもに関する活動をしている人・団体・学生、その他）

子育て支援課 小林係長、大井
健康づくり推進課 工藤課長、市川補佐、三石係長、小須田

【参加費】 無料

【募集定員】 30 名（事前申込制、先着順）

【参加者数】 17 名

【参加者募集方法と時期】

佐久市 SNS（佐久市 LINE など）、なおやマン SNS（Twitter、facebook）にて、11 月 20 日より告知開始、申し込み締切日時は 12 月 4 日（月）17 時

【託児について】

ワークショップ開催時間内に野沢会館内の別室で、事前に託児申込みした参加者のお子さんを預かった。

託児人数は、4 名、託児スタッフは保育士（上原邦子、中島百代、関英子）の 3 名が担当

ワークショップの概要

【ワークショップの目的】

施設の運営を考える上で、主な利用者のひとりである「こども」の気持ちを考えることが重要。こどもの視座で考えることで、オープン前・オープン後の計画や運営を考える時に大切にしなければいけないことを知ってもらう。

※今回のワークショップは、開館後の具体的な計画に反映されるアイデアを出す場ではなく、こどもと関わる大人の意識づくりの場として行った。

【ワークショップの内容】

ミニワークを通して参加者に自分のこどもの頃を思い出してもらったり、こどもの気持ちを想像する体験をしてもらった後に、こども達だったらこの施設（今回は室内を想定してもらった）で「どんなことをしたいか？」をグループワークで考えてもらい、全体に共有する発表をしてもらった。最後に、個人個人で振り返りをし、グループで今回のワークショップで感じたことなどを共有した。

【こどもの視座でどんな施設だったらいいか？】

グループ発表では、5グループが以下の発表をした。

A. こどもだけでも、親子でも、大人数でも少人数でも、元気な子でも静かな子でも、いろんな体験ができてたくさんの将来の夢が持てるような施設

B. 家では汚せない、おもいっきりできる！汚れる！壊す！作る！怒られない！自分で汚れることができる！部屋が欲しい。

ごっこあそびを通して男女関係なく触れ合えて幼児期からジェンダー関係なく遊べる場所。エンターテイメントの中にはマジシャン化学実験屋台シリーズを見ることで知育が構成されます。でも輪の中に入れない子があるので趣味の部屋としてプラレールやりかちゃん人形のような少人数で楽しめる部屋があります。知育の中には、パズル、積み木、ブロックがあります。思い切り体を動かせる部屋があります。

C. のびのび思いきって体を動かし、頭を使って考えて手を使って生み出す。心を育てよく食べ、よく寝て、命を育む。楽しいワクワクいきる施設

D. 四季を通じて「春・夏・秋・冬」ワクワクできるモノづくり「ドカン！」と大きなアートの横でほのぼの親子と一緒に楽しむ「ビクシアター」の脇を、ドキドキしながら「水あそび」と「スライダー」で体を一杯動かした後は、ワイワイチームでゲーム仲間づくりをして・最後に小さいハムスターと触れ合って優しい心が育める佐久市イチオン施設

E. デンジャラス、なりきり、施設で遊ぶ、モノであそぶ、🌟パソビ🌟クッキング、安らぎ、独特、脳活、こどものやりたいゼーンぶ叶う施設

※各グループの発表用紙を本報告書末の「活動記録写真」に写真を添付した。

【参加者の振り返りの声】振り返りでの発言の一部を記述する。

・普段は大人の視座で物事を見てしまっているが、こどもの視座に立つことが大事だと感じた。

・遊具などは必要なく、シンプルなものでもいいのではないか。

・大人の視点として、安全な遊びの方に考えがいつてしまうが、そうではない遊びの方がワクワクしたり、思い出に残るのではないか。

- ・こどもの体と心の育ちを考えた時に、危ないとか危険とか、汚れるという体験は必要
- ・こどもの失敗体験が必要、そのために、大人が見守る心を持つたりすることが大切、施設を運営する人の人間力が必要

アンケートからの声

ワークショップ後に、参加者にアンケートに回答してもらった結果、以下の回答を得た。

今後参加したい講座に関しては、選択肢の「こども達と一緒に遊ぶノウハウ、こども達と一緒に楽しむことや、共に学び成長することなどに役立つ講座やワークショップ」「子育て支援に関する知識を学ぶ講座」「地域でこども達を育むことや、こどもと一緒に地域の大人も成長していくにはどうすればいいか？」を皆で考えるワークショップ」全てに需要がある回答であった。また、参加しやすい曜日や時間についての質問では、土日、平日 19 時以降が参加しやすいとの声が多かった。

自由記述欄の回答を以下に記述する。

- ・次回以降も参加したいので連絡が欲しい。
 - ・次回以降も参加したい、出来るだけ早く開催情報が欲しい。
 - ・次回以降の開催について、どこで情報を得られるか？知りたい。
 - ・託児希望の声があった。幼児連れの方から、時々こどもの様子を見ながら参加できると嬉しい為、ワークショップ実施の部屋と同じ部屋の中に託児スペースを設けて欲しい。
 - ・中高生も参加できると良い。
 - ・新しく参加する方が知り合いがいない中で参加しやすい雰囲気作りができると良い。知り合い同士の輪に入り辛い。
 - ・こどもも参加できると良い。こどもの声を聞きたい。
 - ・新施設の近隣施設、導線も含めて話す場があるといい。
 - ・こどもの教育について語り合うワークショップがあるといい。大人とこども一緒に語り合うバージョンと別々に語り合うバージョン
 - ・子ども家庭庁に移行しているのに、佐久市は子育て支援課と福祉課と分けている理由は何ですか？
 - ・実際に新施設内や導入する遊具などで遊んでみる会があるといい。
 - ・子育て支援、地域でこども達を育むことに関して、どこまで手助けできるのか？知りたい。
- コスト、チラシ
- ・今時のパパ、ママ、じじ、ばばについて知る機会や講座などあるといい。

- ・大人も夢が持てるような講座があるといい。
- ・参加しやすい交通手段のある会場がいい。

振り返り

ワークショップを通して、参加者から、大人の都合を優先するのではなく「子ども達の遊び」を尊重したいという思いや、子ども達にとって「安心して失敗できる場」「汚れてもいい場」「ひとりひとりの個性を受け入れられる場」などが地域にあることが大切という意見が出た。このことから、本ワークショップの開催目的である「子ども達の視座から世界を見ることで、子ども達の成長に大切なことを、参加者の多様な経験を持ち寄り共に探る」ことが達成できたと思う。

今回、参加者の皆さんと一緒に気づいたこと、学んだことを活かして、大人の都合だけではない、子どもの視座から、子ども達にとっての「地域にこんな場があればいいな！」という場を地域の皆さんと探って準備していきたい。

佐久市の職員の人達がグループワークに参加してくれたことは、とても良かった。同じ目線で一緒になって、子育て支援の施設を考えているという場になった。今後は、子ども・学生・大人・シニアなどの多様な年代、子育てや子育て支援施設に興味関心があまりない層の人達なども交えて、様々な人達が、当事者意識を持ち、それを醸成していくような仕掛けをしていく必要があると感じた。そのためには、今回のような、じっくりと考えるワークショップ形式の他に、気軽に参加できるイベントや、知識を得られる講座などの開催も考えていきたい。また、ショッピングセンターや学校などの、人が集まっているところに出向き、実施をするイベントも検討していきたい。

活動記録写真



こどもの気持ちになってミニカーで遊ぶ



席に戻る時も、こども達のように遊びながら（ケンケンで戻る。目を閉じて戻るなど）



グループワークの様子



グループワークの様子



グループワークの様子

